

■発行／南方熊楠顕彰会

〒646-0035 和歌山県田辺市中屋敷町36番地 TEL0739-26-9909 FAX0739-26-9913
http://www.minakata.org/ 〈E-mail〉minakata@mb.aikis.or.jp

自筆資料に見る南方熊楠…………… ②

「メモ(日記)」—李王垠への進講関連メモ—

文／岸本 昌也 (武蔵大学非常勤講師)

目録番号〔自筆 467〕は、原稿用紙の裏面に書き留められた、一片の熊楠自筆メモである(日付なし)。この史料を眺めているうちに、日付や史料の背景がわかってきたので、ここに紹介したいと思う。

史料を一覧すれば、とある一日の熊楠の行動記録であることがわかる。前後関係の不明な文字列もあるが、凡そ次のような日程である。

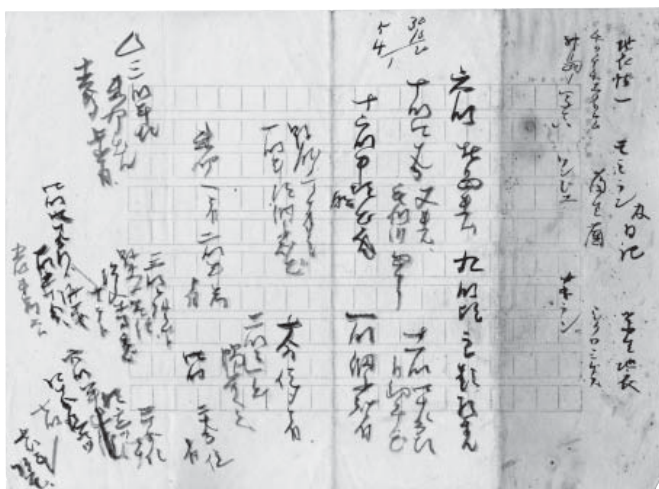
「六時北島来る、九時頃ラン類持来る／十時四十分又来る、毛利川島あり 十一時四十分頃自動車出／十二時半頃船出発 一時綱不知着／県庁をまちおりし 一時半頃綱不知出 十分位して着／二時過出 湯崎へ之／米印へ着 二時半前着／三時に帰らむと県吏より電話 湯に入等事悉までと／△三時半頃米印出る 十五分にして上山着／四時十分頃より講義 一時五十分 五時半前すむ 六時半頃立つ／七時半帰宅」

熊楠は毛利清雅、北島脩一郎、川島草堂らと綱不知へ渡り、湯崎の「米印」(米栄別荘)へ行き、県吏からの電話を受けて「上山」、白浜の上山英一郎(大日本除虫菊株式会社創始者)の別荘に入った。そして講義。熊楠の白浜行きの目的は、上山別荘で講義を行うことにあったのである。

講義の相手は朝鮮王族・李王垠(陸軍中佐・教育總監部課員、併合時の皇太子)であった。韓国併合条約により統治権を失った朝鮮王家は、相当の尊称、威厳、名誉及び歳費を保証されて王族あるいは公族となり、日本の皇室に準ずる立場にあった。

この日、昭和8年10月8日、白浜、那智、本宮、瀬峡などの視察のため紀南を訪れた李王垠は、臨海研究所の巡覧を終えて宿所の上山別荘に戻り、熊楠一行を迎えた。熊楠は蘭の栽培を趣味とする李王垠に対し、蘭の生木七種(北島持参の献上品)や紀州産蘭品腊葉を御覧に入れ、また藻や地衣の標本、ワンジュ、神島の写真を使って進講した。進講は1時間20分に及んでいる(熊楠は1時間50分と勘違いしていた)。

このメモは帰宅後心覚えに書き付けたものと思われ、熊楠が翌日書いた8日の日記には、「朝五時四十分毛利氏来る。今朝五時文里え那智丸にて来着の李王殿下を奉迎の節県知事列をはなれ来り毛利氏に予の講演を頼まれしとのことなり。下女して北島氏を招く(朝飯たかぬ内)。六時直に来る。六時半二人去る。八時五十分北島氏生たる蘭類七種もち来る。紀州産蘭品腊葉みな持来る。十時毛利氏来りまつ。[略] 十時四十分川島氏来る。十時五十分北島氏来る。十一時四十分予毛利北島川島四人自動車にて浜へ之く。[略] 十二時半頃丁度来りし船に乗り出発。[略] 四時十分頃より講演。



〔略〕殿下自ら種々御手記あり。」云々とあり、史料と一致している。尚、当日の朝「県知事列をはなれ来り毛利氏に予の講演を頼まれし」とあるが、これは毛利にアテンドを頼んだということであろう。2日に清水良策知事が熊楠宅を訪ねているから、進講の依頼はその際にあったと思われる。

このメモは、昭和天皇への御進講以後に行われた皇族、王族と熊楠の交流の一齣を示すものであった。今後の研究が期待される分野である。

CONTENTS

第27回南方熊楠賞 授賞式	…2
南方熊楠賞受賞記念講演 加藤 真	…3
第36回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 道明 照	…15
第36回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 菊地 暁	…18
第37回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 熊谷哲哉	…24
第37回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 小坂淑子	…27
第37回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 唐澤太輔	…29
第37回 熊楠をもっと知ろう! 講演会 小田龍哉	…32
第37回 熊楠をもっと知ろう! 座談会	…35
名誉市民墓前報告会	…40
市美展評 杉山和也	…41
南方熊楠と同級生たち 郷間秀夫	…44
書簡の杜(十七) 岸本昌也	…46
南方熊楠記念館訪問記 劉 運涛	…48
南方熊楠研究会 夏期例会について 田村義也	…50
書評・新刊紹介 松居竜五・大橋直義・寺田喜朗	…53
「熊楠」生物覚え書 ② 土永知子	…58
熊楠メモランダム 田村義也	…59
第48回 月例展のご案内	…60